# 果然、川崎を告發

## 證據品を添へて憲兵隊へ

關西總督部司法部列戸支部の川島氏と柴田富太郎氏は十五日夕刻川崎造船所に對する偽印偽造の告發狀に證據品の六個を添へて當地憲兵隊に提出した、内容は本社の綿密なる調査したところ同一で偽造に從事した職工の氏名も列つて居ること

### 告發狀

原告　川島　民
同　柴田富太郎
被告　川崎造船所

### 告訴理由

右川崎造船所は海軍省及び鐵道省より軍艦汽車及び諸機械器具の製作を請負ひつゝあるものなるが軍艦及び汽車其他の諸機械器具の製作につき不正事件あり證據物件相添へ此段告發する如件

(一)前記軍艦及び汽車等に使用する材料は夫れ〳〵指定の强度に製作せざるべからざるこ監督官員以外所持し能はざる刻印を偽造行使し不良なる材料を供給したるものなり今其事實を詳記せば同會社で製出さるべき前記諸材料は其一端に材料試驗用として監督官所持の刻印を監督官監視の前で打刻し之を切斷して同所試驗室において之が試驗をなし合格品のみを供給すべき筈なるに一度合格せざる物品を生じたる場合諸材料を全部廢物とせしたる時は期限の遲延と共に多大の損害を蒙るべきにより該不合格となるべき材料を使用供給する目的を以て完全に試驗し得らるべき他の優良なる材料を用ひて試驗棒を製作し之に職工をして偽造せしめたる刻印を押捺して之れを用ひ監督官を欺瞞して製作供給しつゝあるものなり

(二)證據物件刻印六種

大正十一年二月十五日

鐵路憲兵隊神戸駐屯所長　神谷平三郎殿

# 川崎の不正事件

## 檢事愈〻活動か

### 告發者と再調べた

所轉相生場署長と議し

川崎不正事件は憲兵分駐所から檢事局に送られた事件の通りだが事件の發端は當地方裁判所檢事局横田檢事の召喚を受け十八日午前十一時檢事局に出頭し檢事調所第一室で約一時間に亘り取調を受け正午退出した取調べの内容は告發の事件に手を付ける以前に世間に發表して騒がせました、事件はもう全かり檢事の手に移りましたからもう私の方は檢事からの命令があるか新しい證據品でも掴まぬ限りは之れに關しつて働きません此事件の影が淡いとされたので隨分忙がしい目に會ひましたが事件が全然モノにならないものなら私から檢事局へ渡さないし又檢事局へ受けもしないでせう」と語

の西氏は當地方裁判所檢事局横田檢事の召喚を受け十八日午前十一時檢事局に出頭し檢事調所第一室で約一時間に亘り取調を受け正午退出した取調べの内容は告發の理由並に

### 證據品

の出所に就いてゞあつたらしく檢事局では爲に大活動を開始する模樣であるが川崎造船の所轄署でゝある相生警署（同日正午頃檢事局に出頭し間もなく退廳すること今既は午後一時に遠藤署長が檢事局に來て横田檢事と約一時間に亘つて

### 密議を

凝し川崎町方面に向つた、同署長を訪ふこと『イヤ、夫は不正事件に關してゞはなく、交番所新設の件で』と語つてゐたが矢張り同事件に關してであるらしく想はれた、士一時半頃檢事局から聯合會に寄つた柴田川島兩氏は『別に

### 取り立

てゝ云ふ程のモノに成らぬ事件なら事局も受け無からう』と、神谷憲兵特務曹長が曰ふ

川崎の不正事件は憲兵隊から檢事局の手に移つた、第一幕目はこゝで曹長も漸ト一息吐いてゐる「東

### 密〻の會見

遠藤相生警署長が密〻の會見

川崎造船所を管内に有する相生警察署長遠藤署長は十八日午後一時檢事局に登廳し檢事と何事かを打合せす處あり三時過ぎ退廳するこ同時に一刺所前から腕車を飛ばして川崎造船木社を訪ひ永留重役と何事か打合せす處あつて同四時半歸署したが右は檢印事件に關して會見したものらしく思はれるが永留重役は『相生警署長の見えたのは今回の事件に關してゞ無く前日松方社長が歸朝の挨拶をしに警察へ行つた答禮のため來られたので何の意味も無い』と語つたが別項署長の言語こゝ異つて居る

### 永留重役

偽造事件で問題となつてゐる川崎造船所を管内に有する相生警察署長遠藤署長は十八日午後一時檢事局に登廳し檢事と何事かを打合せす處あり三時過ぎ退廳するこ同時に一刺所前から腕車を飛ばして川崎造船木社を訪ひ永留重役と何事か打合せす處あつて同四時半歸署したが右は檢印事件に關して會見したものらしく思はれるが永留重役は『相生警署長の見えたのは今回の事件に關してゞ無く前日松方社長が歸朝の挨拶をしに警察へ行つた答禮のため來られたので何の意味も無い』と語つたが別項署長の言語こゝ異つて居る

# 鐵道では檢印製作を川崎造船に命じた事は無い

## 本省より送附の檢印十個は現に不足無く揃てゐる

### 證據

として提出のものは明かに偽造品

川崎造船所が偽造檢印事件の證據品の一つとして提出された鐵道省の檢印に就き太省納品檢査事務一切を取扱つてゐる兵庫縣構内鐵道省工作局兵庫派出所に重役問所長を訪ねこ神管の課長會議に列席中で不在であつた

### 同派出

所員は語る「當所に於ても檢印偽造が傳へられるこ同時に既納品等に就き嚴重調査を行ひましたが疑はしいものを認めません」と。檢印は勿論海軍省の方でも同樣でせうが當方は直接東京から送附して來るものであるから其印刻を悉〻當所の民間に命じ調製させる筈がありません

### 從つて

當方では曾て川崎造船所に檢印の調製を依頼した事實は絶對にありません、告發者側に於ては既に鐵道省の偽造印として證據物件が提出されてゐるやうですが、目下當派出所には十個の常備檢印があります然しその全部は本省から送附して來るものです」云〻と語つてゐた

### 檢事局

からは未だ何等の通知にも接して居りませんが右が事實であれば中〻敬聞に値する

# 刻印問題の發表演說會

## 木戸止めの盛況

川崎造船所職工が組織した浪花造船所職工會の大問題たる同造船所刻印偽造事件街頭演說を天下に發表し社會の喚起すべく十九日午後七時神戸湊川勞働館に演說會を開いた聞き傳へて開會前既に滿員木戸止めの大入りで婦人入場者も滿員あつて非常の盛況を呈した、席上川島、柴田兩氏及び久留弘三、木村錠吉その他十數氏交〻立つて各自調査の不正事實を遺憾なく摘發し續行無意味なきまでに會社側を痛罵し午後五時散會した

# 特別手當の支給休止

## 職者益激增す

三菱造船所の退職者は其後益增加し二十一日正午迄に既に三千七十八名に達し尚底止する所なき有樣なので造船所幹部は協議の上愈〻二十五日限り特別手當支給を休止するに決定し二十一日山口造船所副長は小栗長崎警察部長を訪問打合せの上同日午後職工一同に對し之を發表した其結果更に多數の退職申出者あるを豫期されるが造船所側では相當引止策を講じ全部之を承認しないだらうと（長崎特電）